

4 履修案内
1－2 専攻科目

(2014年度入学者から適用)

人間科学部（人間科学科）履修案内

（2014年度入学者に適用）

1 教育目標

人間科学部は、「人間の心身と人間社会に対する多角的・総合的思考を涵養し、人間環境の質の向上と、健康で心豊かな生活を保障する社会の確立に貢献できる人材の育成」を教育研究上の目的としています。

具体的には卒業時に以下のような人材であることを期待しています。

1. 人間や社会及び自然について豊かな教養を身につけ、さらに国際的な視野に立って物事を考えることができる能力を身につけている。
2. 自己の心身をよく認識し、それをさまざまな形で表現し、他者に伝えるコミュニケーション能力を身につけている。
3. 人間を「こころ」と「からだ」の両面から理解するとともに、人間が形成する「社会」の仕組みについて客観的な認識ができ、それらを多角的・総合的に捉える思考力を身につけている。
4. 「こころ」、「からだ」及び「社会」をめぐる諸問題を主体的に発見し、その具体的な解決に向けてさまざまな提案ができる発信力を身につけている。
5. 自己と他者とのつながりを感じ、常に社会的弱者へ温かいまなざしが向けられる姿勢（又は至誠）をもち、健康で心豊かな社会の確立のために、他者と協力しながら問題解決に当たる行動力を有している。

2 カリキュラムの特色

人間科学はさまざまな分野の学問から成り立っている学際的な領域です。人間科学部のカリキュラムは、そうした学際性を強く意識したカリキュラム体系になっています。

1. 1学部1学科とし、そのもとに心理発達、スポーツ健康及び人間社会の3コースを置いている。学生は多角的・総合的思考ができるように、コースの垣根を越えて、どのコースの開講科目も履修できる。
2. 全学共通の教養教育及び外国語科目と人間科学科の専攻科目とを有機的に関連させることにより、豊かな教養と国際的な視野に立った思考力及び専門的な洞察力が相乗的に身に付くように編成されている。
3. 大学における初年次教育である1年次前学期の「FYS」に続き、1年次後学期に「人間科学基礎ゼミナール」を配置し、教養教育から専門教育へのスムーズな移行を促進している。
4. 人間科学科の専攻科目については、1年次必修の「人間科学概論」や「情報処理Ⅰ・Ⅱ」などの基礎科目から基幹科目さらに展開科目へと年次進行にしたがって体系的に学ぶことができるように配置されている。
5. 個人の表現能力、発信力及びコミュニケーション能力を高めるため、本学科では少人数双方向教育を重視している。そのために1年次の「FYS」、「人間科学基礎ゼミナール」に引き続き、2年次に「人間科学専門ゼミナールⅠ」及び3年次に「人間科学専門ゼミナールⅡ」を、必修科目としている。また4年次の「卒業研究」は必修ではないが、専門教育の集大成として履修することを推奨している。そこでは自らが設定した卒業研究の企画及び問題解決のための方法、結果の分析などが求められる。

■基礎科目

基礎科目は、大学教育への導入と2年次以降の<基幹科目><展開科目>への導入として配置されている科目群です。1年次に履修しなければなりません。2年次以降は、専門教育を体系的に学修するうえで必要な基本的思考様式と基礎的な知識を修得することが目的です。以下に、必修科目について紹介します。

○「人間科学概論」（第1 Semester）（必修：2単位）

人間科学概論は、「人間科学とは何か」について、「こころ」、「からだ」、「社会」の視点から概説する。本科目はオムニバス形式の授業で、「人間科学部において何をどのように学ぶのか」の指針となります。また「人間科学概論」とは、同じ<基礎科目>に配置している選択必修科目の「人間形成論」「人間関係論」を両方履修することにより、人間科学部での学修内容を明確にし、総合的・学際的な理解への足がかりとなります。

○「情報処理Ⅰ」（第1 Semester）／「情報処理Ⅱ」（第2 Semester）（必修：各2単位）

50名程度の習熟度別クラス編成で授業が行われます。情報処理については、すでに高等学校で学んできているはずですが、得意な人と不得意な人がいるかも知れません。今後、パソコンの操作を含む情報処理の技能はますます重要になってきますので、積極的に取り組む必要があります。ワード、エクセル、インターネット関連が中心となりますが、著作権などについても学びます。

○「人間科学基礎ゼミナール」（第2 Semester）（必修：2単位）

学問への取り組み姿勢、専門教育での学修方法などについて学ぶ導入教育の授業です。少人数のクラス編成で、「読む」、「書く」、「話す」、「聞く」、「議論する」などの機会を多くもち、自己表現力と対人能力を向上させることを目指します。この科目は、第2 Semester後半でのコース選択や「人間科学専門ゼミナールⅠ」（2年次配当）の選択に際しての手助けとなります。また、大学生活全般に関して自由に相談できる場でもあります。履修希望者が多いゼミでは、何らかの方法で選考が行われます。

■基幹科目

基幹科目は、＜基礎科目＞の理解のうえに立ち、より専門性の高い＜展開科目＞を履修するにあたってそれぞれの学問分野の基本的な知識をより具体的に理解することを目的とした科目群です。主に2年次に配当されていますが、一部、1年次に配当されている科目もありますので注意してください。

尚、「心理発達コース」を選択した人においては、「心理学基礎実験（含む心理検査）Ⅰ・Ⅱ」と「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」（ともに2年次配当）は必修科目となります。「心理学基礎実験（含む心理検査）Ⅰ・Ⅱ」では、少人数のグループに分かれて、特定のテーマのもとに、基礎的な心理学実験（心理検査）を行い、人間の心理特性や研究方法について体験的に学びます。「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」では、心理学の研究を進めるに際しての研究の組み立て方、測定法又は検査法などの基礎的な研究方法、データ処理法などについて学びます。これらの科目はお互いに補完しあうものです。

■展開科目

展開科目は、[専攻科目]の中で、比較的、応用的かつ実践的な科目を主に＜展開科目＞として、2年次・3年次・4年次に配当されています。

○実験・実習、フィールドワークを含む科目

＜基幹科目＞の「心理学基礎実験（含む心理検査）Ⅰ・Ⅱ」や「フィールドワーク入門Ⅰ・Ⅱ」もそうですが、＜展開科目＞ではフィールドワークを行う「社会調査法（含む実習）AⅠ・AⅡ、BⅠ・BⅡ」など、実験・実習、フィールドワークを含む科目を開講しています。実験・実習、フィールドワークを通して、解決すべき問題について、仮説の立て方、実証方法、データ処理を含む分析方法等を修得することがねらいです。その際、1年次に修得した＜基礎科目＞の「情報処理Ⅰ・Ⅱ」のスキルが役立ちます。

○「キャリア特別講義」と「人間科学特別講義」

担当教員による講義に、必要に応じて学外又は学内の講師による講演を加えて行われる講義科目です。講演の前後の週に、講演内容に関連する予習と復習、あるいはディスカッションなどを行います。「キャリア特別講義」では、学問、スポーツ、そのほか各界で活躍中の、キャリアをもったゲストの講演を通して、在学中の学びや将来に対する指針を得ることが期待されます。また、「人間科学特別講義」では、幅広い分野から「人間」のこころとからだに関する現代社会の課題や新たな動きについて紹介します。人間科学の奥行きの高さや楽しさを体感することが期待されます。

○「外国語文献講読Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

外国語（主に英語）のテキストや雑誌などを和訳しながら読んでいきます。少人数のクラス編成とし、場合によってはディスカッションなども行います。

■総合演習

「人間科学専門ゼミナールⅠ」（2年次配当）、「人間科学専門ゼミナールⅡ」（3年次配当）、及び「卒業研究」（4年次配当）で構成されています。前者の2つは必修科目です。

○「人間科学専門ゼミナールⅠ」と「人間科学専門ゼミナールⅡ」（どちらも必修：通年4単位）

1年次で<基礎科目>や<共通科目>を学びながら、自分がどのような分野に関心があり、自分がどのような道に進みたいのかを考えてください。そして自分の関心に近い分野の研究テーマを掲げている教員のゼミナールに所属するのが一般的です。

「人間科学専門ゼミナールⅠ」と「人間科学専門ゼミナールⅡ」は、原則として同じ教員の指導のもとで関心のあるテーマについて研究を行うための場です。そこでは教員及び他のゼミ生と一緒に、研究テーマについて問題意識を深めていくとともに、さまざまな学修上及び学生生活上の問題などについても話し合う機会がもたれます。多くのゼミナールで合宿研修等が実施される予定です。なお、履修希望者が多いゼミでは、何らかの方法で選考が行われます。

○「卒業研究」（通年4単位）

「卒業研究」では「人間科学専門ゼミナールⅠ」と「人間科学専門ゼミナールⅡ」で追究した研究テーマについてさらに深めていきます。「卒業研究」は必修ではありませんが、4年間の学びの集大成として、研究の満足感と成果を得ることができますので、専門ゼミナールⅠ・専門ゼミナールⅡ・卒業研究を段階的に履修することをすすめます。ぜひチャレンジしてください。なお、「卒業研究」の方針については、各担当者のシラバスを参照してください。

■共通教養科目

横浜キャンパス全学部共通に開講する[共通教養科目]は、幅広い教養と問題解決に積極的にチャレンジする知の技法を修得することを目的として、<共通基盤科目>、<共通テーマ科目>から編成されています。人間科学部では、卒業要件単位として、[共通教養科目]を32単位以上修得しなければなりません。

○「FYS (First Year Seminar)」(第1 Semester) (必修：2単位)

みなさんが大学生活へスムーズに適応できるように、全学共通のテキストを用いて、大学生活に必要なスキル (student skill) と学修に必要なスキル (study skill) の修得を中心として、少人数で行うゼミナール形式の科目です。履修するクラスは授業開始前に指定されます。なお、前学期に単位を修得できなかった場合は、後学期に開講される再履修クラスの「FYS」を受講しなければなりません。もし再履修クラスの「FYS」が集中講義形式になる場合には、かなりハードなスケジュールになりますので、前学期にきちんと履修しておくこと。

○外国語科目 (英語) (必修：8単位)

「英語コミュニケーション(Listening)Ⅰ」/「英語コミュニケーション(Speaking)Ⅰ」(第1 Semester)

「英語コミュニケーション(Listening)Ⅱ」/「英語コミュニケーション(Speaking)Ⅱ」(第2 Semester)

「英語コミュニケーション(Reading)Ⅰ」/「英語コミュニケーション(Writing)Ⅰ」(第3 Semester)

「英語コミュニケーション(Reading)Ⅱ」/「英語コミュニケーション(Writing)Ⅱ」(第4 Semester)

本学では意欲的に外国語を学べるように複数の外国語(英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語)を開講していますが、人間科学部では英語(合計8単位)が必修です。今後、コミュニケーションツールとしての英語はますます重要性を増していきます。国際スポーツイベントのサービスなどでも英語は今や必須です。なお、国際的な舞台で活躍するためにも、ほかの外国語の修得にも積極的にチャレンジしてください。詳しくは、外国語科目の履修案内のページを熟読してください。

○共通基盤科目(「FYS」・「外国語科目」以外の科目)

共通基盤科目は「FYS」「外国語科目」のほか、人文の分野、社会の分野、自然の分野、人間形成の分野から構成されており、社会人として幅広い知識と教養を身につけるためにさまざまな授業が開講されています。なお、人間科学部では、人文・社会・自然の各分野から4単位以上の修得が必須であり、かつ、人間形成の分野の「健康科学とスポーツⅠ・Ⅱ」(各1単位)が必修科目となっています。様々な分野の科目を履修し、幅広い分野にわたる教養や基礎的学力を身に付けるとともに、からだを動かして、心身ともにしなやかな人間を目指して欲しいと思います。

○共通テーマ科目

共通テーマ科目は、現代の諸課題を扱う既存の学問分野を越境する性格をもつ科目で、現代社会における市民の生存、生活、活動にかかわる諸課題を取上げ、既存の学問分野に収まりきれない学際的な科目として、5つのサブテーマから構成されています。なお、人間科学部では、「共通テーマ科目」について2単位の修得が必須です。

3 履修要領

履修とは、時間割を確認のうえ、みなさん自身が授業科目を決定し、登録（届け出）することです。人間科学部では、「こころ」、「からだ」、「社会」の各分野の垣根をできるだけ低くし、分野を超えて自由に科目を選択し履修することができます。

しかし、ただ漫然と履修科目を選択してはなりません。「こころ」、「からだ」、「社会」の各分野を、みなさん自身の中で融合させ総合することが求められます。人間科学部ではそのための場所と材料を準備してお手伝いはしますが、主役はみなさん自身です。このことは常に意識しておく必要があります。以下に、履修にあたってのポイントをいくつか記します。

(1) 先ず、必ず修得しなければならない必修科目を履修する必要があります。第1 Semesterでは、[共通教養科目]の「FYS」、[英語コミュニケーション(Listening) I / 英語コミュニケーション(Speaking) I] 及び「健康科学とスポーツ I」、また、[専攻科目]の「人間科学概論」及び「情報処理 I」を履修します。第2 Semesterでは、[共通教養科目]の「英語コミュニケーション(Listening) II / 英語コミュニケーション(Speaking) II」及び「健康科学とスポーツ II」、また[専攻科目]の「人間科学基礎ゼミナール」及び「情報処理 II」を履修します。クラス（担当者）が予め決まっている科目もありますし、クラス（担当者）を決定する方法が別な科目もあるため、ガイダンスや学内の掲示板や『授業時間割表』に特に留意してください。

(2) 次に、[専攻科目]の<基礎科目>にある選択必修科目を履修します。<基礎科目>の卒業要件を満たすためには全ての科目を履修する必要はありませんが、第1 Semesterの「人間形成論」と「人間関係論」はどちらか一方を必ず修得しなければなりません。（できれば両方の科目を履修することが望まれます。）

また、第2 Semesterでは、5つの選択必修科目「健康学概論」「心理学概論」「教育学概論」「社会学概論」「社会福祉学概論」の中から2科目を履修し修得しなければなりません。

(3) そのほかに1年次から、自分の興味・関心、及び卒業後の進路等を常に意識し、[卒業要件]を踏まえながら[共通科目]や[専攻科目]からバランスよく履修科目の選択をするとよいでしょう。

尚、[共通教養科目]にある各分野の科目は、キャリア形成科目を除き全年次対象に配当されていますが、3、4年次は[専攻科目]の学修や就職活動でかなり忙しくなりますので、できれば1、2年次の間に履修することです。また、できるだけ幅広く異なった分野の科目を選択することをおすすめします。

(4) 2年次の必修科目は、第3 Semesterでは[共通教養科目]の「英語コミュニケーション(Reading) I / 英語コミュニケーション(Writing) I」、第4 Semesterでは、「英語コミュニケーション(Reading) II / 英語コミュニケーション(Writing) II」です。また、[専攻科目]については「人間科学専門ゼミナール I」が必修科目です。

「人間科学専門ゼミナール I」の選択に際しては、1年次の10月に各教員のゼミナールの紹介を兼ねた『ゼミナール要項』が配付され、11月頃に何度かゼミナールの説明会が開催されます。その『ゼミナール要項』を熟読し、また必ず説明会に参加して希望のゼミナールを選択することが必要になります。申込み・選考は、1年次の12月に行われる予定です。応募者が多いゼミナールでは何らかの方法で選考が行われることがあります。もし選考にもれた場合には、二次募集を行う他のゼミナールに再度応募する必要がありますので、二次募集に関する情報を学内の掲示板等で確認してください。

「人間科学専門ゼミナール I」（2年次）と「人間科学専門ゼミナール II」（3年次）は必修科目です。これらを履修しないと卒業できないので、期間内にきちんと申し込みをしてください。

「人間科学専門ゼミナール II」（3年次）は原則として「人間科学専門ゼミナール I」（2年次）と同一の教員のゼミナールに所属してください。特別な理由で変更を希望する場合は、受け入れ先のゼミナールの担当教員の承諾を得るとともに、元のゼミナールの担当教員とも話し合ってください。各コース主任の許可を得た後、変更を行うことが可能となります。もし困った場合には、教務課の窓口で相談してください。

(5) 人間科学部の特色の一つとして、実験・実習、フィールドワークを含む科目があります。人間科学部は実践的な学修を重視する学部です。高校時代までに身につけた机に向かったの勉強も大事ですが、行動と実践を伴う科目もぜひ積極的に履修してください。

(6) 4年次に開講する「卒業研究」は多数の学生のみなさんが履修されることを期待しています。特に大学院（他大学を含め）への進学を考えている人はぜひ履修してください。

4 履修要件

〔履修要件〕とは、授業科目を履修するにあたっての決まりごとのことです。「教育課程表」の脚注ページにある〔履修要件〕を必ず確認してください。

5 コース制

人間科学部では、「心理発達コース」、「スポーツ健康コース」、「人間社会コース」のいずれかのコースを選択し、登録しなければなりません。コースの選択にあたっては、1年次4月のガイダンス及び11月に行われる「人間科学専門ゼミナールⅠ」の説明会を参考にしてください。1年次から卒業後の進路を含め、自分の関心がどこにあるのかをできるだけ意識化して固めておくことが重要です。

なお、コースの登録と、「人間科学専門ゼミナールⅠ」の決定とは密接に関係します。「人間科学専門ゼミナールⅠ」の選択にあたっては、多くの場合、直前に登録を完了したコースに所属する担当教員が開講するゼミナールを履修することになると思います。

また、特別な事情が生じた場合に限り、3年次及び4年次当初に、コース変更が認められます。（「教育課程表」の脚注ページにある〔コース制〕を必ず確認してください。）

(人間科学部の構成)

人間科学部－人間科学科

心理発達コース
スポーツ健康コース
人間社会コース

■心理発達コース

心理発達コースでは、心理・発達・教育の視点から、人間のこころの発達や特性について学びます。まず心身両面から自己を再確認し、それを他者理解、対人能力の向上へとつなげていきます。基礎的学修に加え、実験・実習を組み入れ、さらに犯罪被害者や災害被害者の心理、高齢者や障害者の心理、健康心理学など、応用的な学修にも力を入れています。なお、この心理発達コースを選択した場合、「心理学基礎実験（含む心理検査）Ⅰ・Ⅱ」と「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」の単位を必ず修得する必要があるので注意してください。また、「感覚知覚心理学Ⅰ・Ⅱ」、「生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ」、及び「臨床心理学Ⅰ・Ⅱ」は、履修することが望ましい授業科目です。

■スポーツ健康コース

スポーツ健康コースでは、健康を科学的に捉え、身体的技能や指導技能の修得を目指し、実践教育を取り入れた幅広い見識・教養を備えた学生の人材の育成に重点をおいています。また、現代のニーズに即したスポーツ産業ビジネス・マネジメントスキルの向上のための専門知識を学修し社会に通用する人材の育成を目指しています。

■人間社会コース

人間社会コースでは、「こころ」と「からだ」をもつ人間が形成する「社会」という軸に焦点をおき、「社会的存在」としての「人間」の側面に着眼して学修していきます。「人間」と「社会」の相互形成や多様化していく現代社会及び地域・国際社会についての理論を学ぶとともに、調査実習を通して実証的に学ぶことにも重点をおき、主体的に問題を発見し、社会に積極的に提案する実践力や企画力を養成します。

6 履修に関する年間スケジュール

1年次	4月	各種ガイダンス 履修科目登録（第1・2セメスター科目の登録）
	6月	「人間科学基礎ゼミナール」説明会・履修申込み・決定（二次募集・決定）
	9月	履修科目登録（第2セメスター科目の追加・削除・変更） 「人間科学専門ゼミナールⅠ」募集要項配付
	11月	「人間科学専門ゼミナールⅠ」説明会
	1月	「人間科学専門ゼミナールⅠ」履修申込み・決定
		同 二次募集・決定
2年次	4月	コース登録

7 学外単位認定制度

〔学外単位認定制度〕とは、①海外語学研修のプログラムを修了した、②各種の検定試験に合格した、③横浜市内の他大学の授業科目の単位を修得した場合に、人間科学部のカリキュラムに応じた単位として認定する制度です。「教育課程表」の脚注ページにある〔学外単位認定制度〕を必ず確認してください。また、詳細は「学則及び諸規程」にある各制度に関する規程にて紹介されています。

8 卒業要件

〔卒業要件〕とは、卒業するために必要な決まりごとのことです。この決まりごとを満たさなければ卒業することはできません。「教育課程表」の脚注ページにある〔卒業要件〕を必ず確認してください。

9 履修モデル（履修モデルは参考であり、必ずしもこれに従わなければならないわけではありません）

■モデルⅠ（心理発達コース：心理福祉）

将来福祉職や心理職を希望する人や大学院の進学を目指す人のための履修モデルです。学校現場をめぐる様々な難問を背景に「臨床心理士」、「学校心理士」をはじめとする各種心理士の育成は急務です（ただしこれらの資格を取得するには大学院へ進学することが必要です）。また、人災、天災後による被害者のこころのケアのためにも各種心理士への社会的ニーズは高まっています。在学中の関係単位取得は、これら専門職へのステップとなります。

基礎科目	・人間科学概論 ・人間形成論 ・人間関係論 ・(健康学概論) ・心理学概論 ・教育学概論 ・(社会学概論) ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・感覚知覚心理学Ⅰ・Ⅱ ・認知心理学 ・生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ ・臨床心理学Ⅰ・Ⅱ ・人格心理学 ・犯罪心理学 ・心理学基礎実験(含む心理検査)Ⅰ・Ⅱ ・心理学研究法Ⅰ・Ⅱ ・心理統計法Ⅰ・Ⅱ ・スポーツ心理学 ・公衆衛生学 ・人口地理学 ・現代社会心理学 ・家族社会学
展開科目	・環境心理学 ・色彩心理学 ・心理工学と計測 ・児童心理学 ・青年心理学 ・家族心理学 ・発達臨床心理学 ・高齢者障害者福祉心理学 ・心理療法Ⅰ・Ⅱ ・健康心理学 ・ジェンダー心理学 ・コミュニティー心理学 ・組織心理学 ・被害者心理学 ・精神医学 ・脳損傷リハビリテーション ・大脳生理学 ・ボランティア学習論 ・実践メディア論Ⅰ・Ⅱ ・プログラミング演習 ・人間科学特別講義 ・高齢社会論 ・身体表現法 ・児童福祉論 ・高齢者福祉論 ・障害者福祉論 ・地域福祉論 ・ホスピタリティ論
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ ・卒業研究

■モデルⅡ（心理発達コース：人間発達）

人間の発達環境を、こころや身体と関連させながら総合的に理解し、将来、幅広く人に関わる職業を目指す人の履修モデルです。またこのモデルでは、将来の研究職、行政職、社会科教諭などの育成を目指します。

基礎科目	・人間科学概論 ・(人間形成論) ・人間関係論 ・(健康学概論) ・心理学概論 ・教育学概論 ・(社会学概論) ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ ・心理学基礎実験(含む心理検査)Ⅰ・Ⅱ ・心理学研究法Ⅰ・Ⅱ ・心理統計法Ⅰ・Ⅱ ・教育人間学 ・教育社会学 ・異文化間教育学 ・スポーツ心理学 ・公衆衛生学 ・家族社会学 ・現代社会人類学
展開科目	・児童心理学 ・青年心理学 ・家族心理学 ・発達臨床心理学 ・高齢者障害者福祉心理学 ・コミュニティー心理学 ・児童福祉論 ・高齢者福祉論 ・障害者福祉論 ・教育哲学 ・教育行政学 ・ボランティア学習論 ・教育組織論 ・実践メディア論Ⅰ・Ⅱ ・プログラミング演習 ・地域情報論 ・生涯スポーツ論 ・人間科学特別講義 ・法女性学 ・市民社会論 ・スポーツ文化 ・スポーツ哲学 ・身体表現法 ・ロールモデル論 ・スポーツ行政学 ・ホスピタリティ論
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ ・卒業研究

■モデルⅢ（スポーツ健康コース：スポーツと産業系）

現代社会の構造や事象を、「スポーツ」を切り口や材料として理解することで、企業人としての資質を身につけ、スポーツ関連企業、レジャー関連産業領域をはじめとする一般企業はもとより、スポーツの普及振興にかかわる行政団体、NPOや財団法人といった公益団体などへの就職を目指す人のためのモデルです。

基礎科目	・人間科学概論 ・人間形成論 ・人間関係論 ・健康学概論 ・心理学概論 ・社会学概論 ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・スポーツ学概論 ・現代社会とスポーツ ・スポーツ社会学 ・スポーツ産業論 ・スポーツマネジメント ・スポーツと経済 ・スポーツ心理学 ・公衆衛生学 ・社会調査論Ⅰ・Ⅱ ・人口地理学 ・現代社会論Ⅰ・Ⅱ ・現代社会心理学
展開科目	・スポーツ哲学 ・スポーツ文化 ・生涯スポーツ論 ・スポーツと法 ・スポーツマーケティング ・地域社会・公共政策とスポーツ ・施設・イベントマネジメント ・スポーツと会計・財務 ・スポーツと組織・企業 ・レジャー・スポーツとツーリズム ・ホスピタリティ論 ・メディアトレーニング ・地域社会学 ・高齢社会学 ・障害者福祉論 ・社会調査法(含む実習)AⅠ・AⅡ・BⅠ・BⅡ
他学科 専攻科目 ※	・都市計画 ・都市デザイン論 ・基礎簿記 ・基礎会計 ・財務会計論 ・ミクロ経済学 ・マクロ経済学 ・行政法 ・広告論 ・人的資源間理論 ・経営戦略 ・経営分析 ・経営組織論 ・中小企業論
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ ・卒業研究

※他学科専攻科目にあげた科目は、履修制限がある科目などもあるため、他学部学科、コースなどとも調整が必要である。

■モデルⅣ（スポーツ健康コース：リーダーの育成）

学生時代に培われたリーダーシップ、フォロアーシップ等、行動力を十分に活かし、企画・運営に携わり企業内においてもリーダーとして活躍することを目指す人のためのモデルです。また、地方自治体で警察官や消防士等の職業を選択しようとする人のためのモデルでもあります。所定の教職科目及び教科に関する単位を取得し、介護、教育実習等を経て、保健体育教諭の資格を取得することができます。

基礎科目	・人間科学概論 ・人間形成論 ・人間関係論 ・健康学概論 ・心理学概論 ・(教育学概論) ・(社会学概論) ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・スポーツ学概論 ・健康管理学 ・スポーツ栄養学 ・トレーニング基礎論 ・トレーニング実技 ・スポーツ生理学 ・スポーツ社会学 ・スポーツ心理学 ・スポーツ競技Ⅰ・Ⅱ ・公衆衛生学 ・解剖学 ・生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ ・教育人間学 ・現代社会学 ・家族社会学 ・臨床心理学Ⅰ・Ⅱ

展開科目	・スポーツ哲学 ・スポーツ文化 ・ロールモデル論 ・スポーツ経営管理学 ・スポーツ産業論 ・救急法 ・テーピング ・トレーナー論 ・コーチング論 ・運動処方論 ・運動処方実験実習 ・生涯スポーツ論 ・スポーツ競技 ・スポーツ行政 ・スポーツ医学 ・測定評価 ・学校保健 ・キャリア特別講義 ・児童心理学 ・青年心理学 ・発達臨床心理学 ・ボランティア学習論 ・高齢者障害者心理学 ・防災社会論 ・気象学 ・環境計画論 ・環境社会論 ・異文化社会論 ・障害者福祉論 ・高齢者福祉論 ・地域福祉論 ・地域社会学
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ ・卒業研究

■モデルⅤ（人間社会コース：社会理論学修・研究）

人間社会についての経験的・実証的知見を踏まえた理論・方法論を学ぶモデルです。このモデルでは、将来の研究職、行政職、社会科教諭などの育成を目指します。

基礎科目	・人間科学概論 ・人間形成論 ・(人間関係論) ・(健康学概論) ・(心理学概論) ・(教育学概論) ・社会学概論 ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理Ⅰ・Ⅱ
基幹科目	・現代社会論Ⅰ・Ⅱ ・現代社会心理学 ・家族社会学 ・ジェンダー研究 ・社会統計学Ⅰ・Ⅱ ・社会調査論Ⅰ・Ⅱ ・教育人間学 ・生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ ・犯罪心理学 ・教育社会学 ・スポーツ心理学
展開科目	・異文化社会論 ・地域社会学 ・市民社会論 ・高齢社会論 ・法女性学 ・市民社会論 ・横浜学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ・環境計画論 ・コミュニティー心理学 ・家族心理学 ・青年心理学 ・児童心理学 ・高齢者福祉論 ・地域福祉論 ・児童福祉論 ・障害者福祉論 ・ロールモデル論 ・現代メディア論 ・国際社会論 ・形質人類学
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ ・卒業研究

■モデルⅥ（人間社会コース：地域社会学修・研究）

人間社会の具体的な展開の場である「地域社会」をフィールドとして、その構造や諸課題について調査実習などを取り入れて実証的に学んでいくモデルです。このモデルでは、将来の社会調査士、マスコミ関係職、福祉関係職、気象予報士、環境計画・防災関係職などの育成を目指します。

基礎科目	・人間科学概論 ・(人間形成論) ・人間関係論 ・(健康学概論) ・(心理学概論) ・(教育学概論) ・社会学概論 ・社会福祉学概論 ・人間科学基礎ゼミナール ・情報処理Ⅰ・Ⅱ ・フィールドワーク入門Ⅰ
基幹科目	・現代社会論Ⅰ・Ⅱ ・家族社会学 ・国際社会論 ・人口地理学 ・景観地理学 ・データ分析法Ⅰ・Ⅱ ・社会統計学Ⅰ・Ⅱ ・社会調査論Ⅰ・Ⅱ ・スポーツ社会学 ・フィールドワーク入門Ⅱ ・教育社会学 ・犯罪心理学 ・生涯発達心理学Ⅰ・Ⅱ
展開科目	・現代文化人類学 ・地域社会学 ・地域情報論 ・環境社会論 ・産業地理学 ・現代メディア論 ・環境社会論 ・横浜学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ・社会調査法(含む実習)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ・環境計画論 ・防災社会論 ・気象学 ・発達臨床心理学 ・高齢者障害者心理学 ・高齢者福祉論 ・地域福祉論 ・高齢社会論 ・世界地誌 ・ホスピタリティ論 ・異文化社会論
総合演習	・人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ ・卒業研究

10 履修系統図

人間科学部は学部の教育方針として「12の力」を策定し、これに基づきカリキュラムの検証を行い、履修系統図を作成しました。

これは、人間科学部の教育方針(身につく力)【対人関係力・自己管理力・批判的思考力】を共通の目標とし、3つのコースがそれぞれ3つの教育方針を策定し、当該科目を履修することによって“どんな力が身に付くか”という視点で図化したものです。前述の「履修モデル」や「教育課程表」と比較しながら、みなさんの履修計画に役立ててください。

2018年度 人間科学部人間科学科 教育課程表(2014年度入学者に適用)

		1年次				2年次				
		1セメスター		2セメスター		3セメスター		4セメスター		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
基礎科目	基礎科目	人間科学概論	○2	健康学概論	×2					
		人間形成論	×2	心理学概論	×2					
		人間関係論	×2	教育学概論	×2					
		情報処理Ⅰ	○2	社会学概論	×2					
	基幹科目	心理発達					心理学基礎実験 (含む心理検査)Ⅰ	2	心理学基礎実験 (含む心理検査)Ⅱ	2
							感覚知覚心理学Ⅰ	2	感覚知覚心理学Ⅱ	2
		スポーツ健康	トレーニング実技	2	トレーニング実技	2	スポーツ競技Ⅲ	2	スポーツ競技Ⅳ	2
			スポーツ競技Ⅰ【休講】	2	トレーニング基礎論【休講】	2	スポーツ生理学	2	スポーツ心理学	2
			スポーツ学概論【休講】	2	スポーツ競技Ⅱ【休講】	2	スポーツ栄養学	2	公衆衛生学	2
			健康管理学【休講】	2	スポーツ社会学	2			解剖学	2
人間社会	社会調査論Ⅰ	2	フィールドワーク入門Ⅰ	1	現代社会論Ⅰ	2	現代社会論Ⅱ	2		
			社会調査論Ⅱ	2	ジェンダー研究	2	現代社会心理学	2		
専攻科目	心理発達					国際社会論(アジア)	2	景観地理学	2	
						人口地理学	2	データ分析法Ⅱ	2	
	スポーツ健康	環境心理学	2			データ分析法Ⅰ	2	社会統計学Ⅱ	2	
		児童心理学	2			社会統計学Ⅰ	2	現代文化人類学	2	
		大脳生理学	2			家族社会学	2	フィールドワーク入門Ⅱ	1	
		ポランティア学習論	2							
		スポーツ実技種目(球技①)	2	スポーツ実技種目(球技①)	2	発達臨床心理学	2	心理療法学Ⅰ	2	
		スポーツ実技種目(球技②)	2	スポーツ実技種目(球技②)	2	心理療法学Ⅱ	2	健康心理学	2	
						ボランティア学習論	2	ジェンダー心理学	2	
						テーピング【休講】	2	救急法	2	
人間社会	形質人類学	2			スポーツ実技種目(器械運動)	2	スポーツ実技種目(器械運動)	2		
					スポーツ実技種目(陸上競技)	2	スポーツ実技種目(陸上競技)	2		
展開科目	スポーツ健康	スポーツ実技種目(球技③)	2	スポーツ実技種目(球技③)	2	スポーツ実技種目(球技③)	2	スポーツ実技種目(球技③)	2	
		スポーツ実技種目(水泳)	2	スポーツ実技種目(水泳)	2	スポーツ実技種目(水泳)	2	スポーツ実技種目(水泳)	2	
	スポーツ実技種目(ダンス)	2	スポーツ実技種目(ダンス)	2	スポーツ実技種目(ダンス)	2	スポーツ実技種目(ダンス)	2		
	スポーツ実技種目(武道)	2	スポーツ実技種目(武道)	2	スポーツ実技種目(武道)	2	スポーツ実技種目(武道)	2		
	スポーツ哲学	2	スポーツ哲学	2	スポーツ医学	2	スポーツ医学	2		
	ロールモデル論	2	ロールモデル論	2	運動処方論	2	運動処方論	2		
	学校保健	2	学校保健	2	野外実習	2	野外実習	2		
	スポーツ産業論	2	スポーツ産業論	2	野外実習	2	野外実習	2		
	野外実習	2	野外実習	2	生涯スポーツ論	2	生涯スポーツ論	2		
	人間社会									
関連科目	人間科学特別講義	2	ホスピタリティ論	2	実践メディア論Ⅰ	2	障害者福祉論	2		
					プログラミング演習	2	実践メディア論Ⅱ	2		
					児童福祉論	2	レジャーと産業Ⅱ【休講】	2		
					レジャーと産業Ⅰ	2	キャリア特別講義	2		
	日本史概論Ⅰ	2	日本史概論Ⅱ	2	日本経済史Ⅰ	2	日本経済史Ⅱ	2		
	外国史概論Ⅰ	2	外国史概論Ⅱ	2	西洋経済史Ⅰ	2	日本政治史	2		
	人文地理学概論Ⅰ	2	人文地理学概論Ⅱ	2	国際法Ⅰ	2	西洋経済史Ⅱ	2		
	自然地理学概論Ⅰ	2	自然地理学概論Ⅱ	2	国際法Ⅱ	2	国際政治学Ⅰ	2		
	経済地理Ⅰ	2	経済地理Ⅱ	2	行政法Ⅰ	2	行政法Ⅱ	2		
	地理学(含地誌)	2	地理学(含地誌)	2	日本政治	2	比較政治学Ⅰ	2		
地誌学概論	2	地誌学概論	2	比較政治学Ⅱ	2	国際政治学Ⅱ	2			
憲法概説Ⅰ	2	憲法概説Ⅱ	2	国際政治学Ⅰ	2	国際政治学Ⅱ	2			
民法概説	2	刑法概説	2	世界経済論Ⅰ	2	世界経済論Ⅱ	2			
		政治学入門	2	経済政策	4	経済政策	4			
		経済史Ⅰ	2	経済史Ⅱ	2	財政学Ⅰ	2			
		哲学概論Ⅰ	2	哲学概論Ⅱ	2	財政学Ⅱ	2			
総合演習				金融論	4	金融論	4			
				人間科学専門セミナーⅠ			○4			

〔備考〕

- 1 ○印は必修科目、×印は選択必修科目、◎印は新設科目、★印は学期変更科目、◆印は隔年開講で今年度休講の科目を示す。

〔履修要件〕

- 1 同一授業科目は、重複して履修することはできない。
- 2 科目によっては履修資格や人数が制限される場合があるので注意すること。
- 3 1年間の履修単位数は44単位以内とし、半期に履修登録できる単位数は30単位以内とする（通年科目を履修した場合は、その科目の単位数を二分割し、前期・後期のそれぞれの学期の単位数として換算する）。ただし、卒業年次生に限り、特別に人間科学部長の許可を得た者は上記の制限を超えて履修登録することができる。なお、卒業要件単位数に算入されない資格教育課程に関する科目の単位数はこの枠外とする。
- 4 長期履修学生制度適用者が各セメスターにおいて履修登録できる単位数は、学期の違いにより14単位もしくは16単位以内とする。

〔コース制〕

- 1 2年次の前学期に「心理発達」、「スポーツ健康」、「人間社会」のうち、いずれかのコースを選択し、登録する。
- 2 コースの変更を希望する者は、3年次当初または4年次当初に「コース変更」を申請し、人間科学部長の許可を得なければならない。なお、年度途中での変更は認めない。

〔学外単位認定制度〕

学則第13条及び第13条の2に基づく次の単位は、本学における授業科目の履修とみなし、卒業要件単位数に算入することができる。なお、横浜市内大学間の単位互換科目を履修する場合は、各セメスターの履修制限単位数に含める。

- 1 本学が主催または推薦する「海外語学研修制度」所定のプログラムを修了して認定された単位。
- 2 文部科学大臣認定の技能審査及びこれに準じる知識及び技能に係る審査に合格した者で、本学における所定の手続きにより認定された単位。
- 3 横浜市内大学間の単位互換により修得した他大学の提供科目等で、本学の授業科目として認定された単位。

〔卒業要件〕

- 1 4年以上在学し、学則所定の次表の「卒業要件単位数」を修得しなければならない。

授業科目 入学年度	共通教養科目										専攻科目					合計			
	共通基盤科目						共通テーマ科目				基礎科目	基幹科目	展開科目		総合演習		合計		
	F	Y	S	外国語科目(英語)	人文の分野	社会の分野	自然の分野	人間形成の分野	グローバル経済を学ぶ	社会と人間			科学技術と社会	生と死を考える				公共の新しいかたちをもとめて	展開科目
2014年度入学	2	8	4	4	4	2	2				32	14	22	30		50	8	94	126
			6											20					

- 2 共通教養科目から次の内訳で合計32単位以上修得すること。

- (1) F Y S 2単位。
- (2) 外国語科目から英語を8単位以上。ただし、外国人留学生及び外国高等学校在学経験者（帰国生徒等）は申請により、英語に換えて4～6単位を日本語とすることができる。なお、8単位に不足する単位は英語で補うものとする。
- (3) 人文・社会・自然の各分野からそれぞれ4単位以上修得すること。
- (4) 人間形成の分野から「健康科学とスポーツⅠ・Ⅱ」の単位を含めて2単位以上修得すること。
- (5) 共通テーマ科目から2単位以上修得すること。
- (6) 人文・社会・自然・人間形成の各分野及び共通テーマ科目から規定の単位数を超えて6単位以上修得すること。
- (7) 「スポーツ文化Ⅰ～Ⅲ」は、2単位まで卒業要件単位数に算入することができる。

- 3 専攻科目から次の内訳で94単位以上修得すること。

- (1) 基礎科目から次の単位を含めて、14単位以上。
 - ① 必修科目8単位。
 - ② 選択必修科目は、「人間形成論」、「人間関係論」のうち2単位以上、および「健康学概論」、「心理学概論」、「教育学概論」、「社会学概論」、「社会福祉学概論」のうち4単位以上、合計6単位以上。
- (2) 基幹科目から22単位以上。なお、「心理発達」コースを登録した者は、「心理学基礎実験（含む心理検査）Ⅰ・Ⅱ」および「心理学研究法Ⅰ・Ⅱ」の単位を含め22単位以上修得すること。
- (3) 展開科目及び関連科目から50単位以上。ただし、展開科目から30単位以上修得すること。

なお、次の単位は、関連科目の単位として算入できる。

 - ① 卒業要件単位数を超える共通教養科目、基礎科目、基幹科目、展開科目、総合演習の単位。
 - ② 第二外国語および他学部・他学科開講の専攻科目。ただし、他学部・他学科が受講を認めていない科目については、履修することはできない。
 - ③ 教職課程本登録者が修得した教職課程の「教職に関する科目」。ただし、10単位を上限とする。（教職課程仮登録者は算入できない）
- (4) 総合演習から「人間科学専門ゼミナールⅠ・Ⅱ」の単位を含め8単位以上。

教育課程における標準年次の区切線について

- ① 標準年次が実線（——）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できません。
- ② 標準年次が破線（……）で区切られている場合、原則として上位年次の授業科目は履修できますが、〔履修要件〕等にしたがって履修できない授業科目もありえますので注意してください。